

アマダイ通信NO. 81b

(Tile fish network letter)

2010年 金木犀香る

知人・友人各位

この長い「夏」、キューバ、中国、ベトナムと、地球上に数少なくなった「社会主義国」を駆け足で回る。特色ある国々だが、「社会主義」とは？と色々考える。北海道の補選で勝った自民党が、民主党の金権体質を勝因に挙げるが、自分のことは棚に上げてと、笑ってしまう。政策で競って欲しい。一度ガラガラポン、正・反・合と止揚できぬか？菅民主党政権はシャキッとしろという意見が多いが、政治が強過ぎると碌なことがないのも歴史的事実。隣の大国を見て感じますが、民意に基礎を置かない政権は意外と脆いものです。

◎中国は巨大監獄！？

尖閣の事件が起こった後、天空列車でのチベットツアーに参加、厳しいチベットの現状を目にした。帰国後、中国人人権活動家のノーベル平和賞受賞を巡る中国共産党の有無を言わせぬ対応を見るにつけ、元マオイスト、親中派としては複雑な気持ちだ。

チベットでは二年前中国のチベット支配に反対し、独立を求める暴動が起きた。そのため予定していた天空列車でのチベット行きが中止になり、ようやく今回実現した。大丈夫外国人にも観せられるというので許可したのだろうが、列車の沿線には一定間隔で監視所が置かれ、武装兵士が見張る。ラサの中心部、ポタラ宮の前やチベット仏教の総本山ジョカン寺の周囲では50メートルおきくらいに、大きなパラソルの下で兵士4人が背中合わせで、実弾を込めた自動小銃を市民に向ける。中国共産党によるチベット併合後既に50年。そうしなければ維持できない「支配」とは何なのか？毛澤東は「政権は銃口から産まれる」と教えたが、銃口でしか維持できない支配は、「実効支配」といえるのか？

検閲でテレビ画面が突然真っ黒になるというニュースを見て、学生運動で中野刑務所に収監されていた頃を思い出す。学生運動の情報だけでなく、三島由紀夫の防衛庁での割腹事件の時なども、ラジオが突然切られて聞けなくなったり、購読している読売新聞が真っ黒に墨で塗られたりした。中国のノーベル平和賞を巡る対応はそれと同じではないか？中国は巨大な監獄だ！？

◎避難先に水がなかったら？・・・広がる地下水利用

日本経済の高度成長時代には太平洋ベルト地帯に工場が密集、工業用水として大量に地下水を汲み上げ、各地で地盤が沈下、多くの自治体で地下水利用が規制された。その後工場の地方や海外への移転、工場排水の再利用が促進され、都市部の地盤沈下は止まり、東京などでは逆に地下水位が上昇、東京駅や上野駅では地下にアンカーを打って駅舎の上昇を防ぎ、目黒川やしのばず池の浄化用に排水している。

多くの自治体で地下水利用規制は緩和され、京都などの駅ビル、赤十字や大学病院などの大病院では地下水を利用して専用水道を作り、水道インフラを二重化、非常時に備えている。都内でも東大病院やホテル椿山荘等では古井戸を利用して、専用水道を作り、セキュリティを向上させているが、東京都は新規の井戸の掘削を原則的に認めない。

東大は農学部にも古井戸があるというので、東大病院、医科学研究所に続き井水利用の専用水道システムを設置、水道インフラを二重化、震災に備えることを提案するが、古井戸は全部潰したという。震災時の避難場所に指定されながら、飲料水やトイレの水が確保できない恐れが大だ。都が地下水利用規制を続けるのは、水道財政悪化懸念があるからと思われるが、既得権益を守ろうと震災用井戸の新規掘削とインフラの二重化を認めず、都民を犠牲にするのはおかしい。八つ場ダムなどの無駄な投資を止め、低コストで水を供給できるようにすべきだ。石原知事の後継を狙う？作家の猪瀬副知事は、「東京水道」のアジア進出を盛んに吹聴するが、高コスト体質のままアジアに受け入れられるだろうか？

◎医事新報に書け！&お前の1960年代を、死ぬ前にしゃべっとけ！

久し振りに台風襲来の9月半ば、学士会館で濱田東大総長を招き三鷹クラブ93回懇談会。●の大腸癌を手術してくれた三楽病院の河野名誉院長も出席、医事新報に書くように言われる。毎週二万部と一番部数の多い医療業界誌。「治癒する見込みなし」の大腸がんステージⅢbから生還、やりたいことを精力的にやっているのは素晴らしい。癌が転移していたリンパ腺を三ヶ所とも除去出来たのは運がいい。大腸をどう切るかではなく、癌が転移したリンパ腺を取り切れるかが一番大事だと。医事新報で紹介するというくらいだから、●の場合は稀有な例かもしれないが、今や癌も不治の病ではなくなった。

10月半ば、駒場の中国語クラスの1年先輩、学生運動仲間の加納さんが本を出したので、銀座のカフェで出版記念会（「お前の90年代を死ぬ前にしゃべっとけ！」加納明弘・健太親子、ポット出版、1800円・・・近くの図書館でリクエスト出来ます）。色とりどりのヘルメットを被り、命懸けで走り回っていた駒場の学生運動仲間が多数集う。畏友前田兄（※）が前半を司会、深刻な内ゲバの話も酒で流し、後半は●が司会、久しぶり肩組んでインターナショナル歌いお開き。終了後学士会館で一世代上の寮の先輩、●名付け親の三谷さんの13回忌。こちらは肩組んで、昭和12年作の寮歌でフィナーレ。

加納父は2008年7月に余命1年、5年後生存率ほぼ0と肺癌の告知を受けた。息子から見ると、家族団欒など省みず、全知の神の如くふるまう尊大で頑固な得体の知れぬ加納父。一体何者か？加納息子は残された時間内に、親父の過去をとことん聞き倒そうと父子合宿を企画、出来上がったのが本書。2008年8月の手術から2年2ヵ月。加納父は生きていて、がんの再発もなし。●同様、閻魔大王を論破したのか？オルグったのか？

他方、三谷先輩は最新の治療法から、民間療法まで、周囲の人間も巻き込みあらゆる手を尽くしたが、発見が遅れたせいもあり、癌を克服できず。最近、植物や鉱物などを極端に水に希釈、砂糖に染み込ませて飲む、ホメオパシー療法の効果を日本学術会議会長が否定し波紋を呼ぶが、日本人の半分が癌になり、三分の一ががんで死亡する、つまり癌になった人の三分の二は癌で死ぬ。日進月歩とは言え医療も万能ではないから、ワラにでも縋りたいという気持も分からないではない。だが一方で治療の機会を失ったり、代替療法は多くの場合高価で経済的な困難を伴うこともある。あなたならどうする？

※前田和男著『民主党政権への伏流』（ポット出版、四六版648頁、3千2百円）出版記念トーク、御厨貴×前田和男『政治は誰がつくっているのか・・・インタビュアーが見る政権交代』、11月27日（土）開場15時45分、入場料500円、神保町・東京堂書店神田本店6F、定員80名、要予約、電話03-3291-5181、メール：tokyodosyoten@nifty.com

◎牛丼戦争、勝者は誰か？

本郷三丁目に松屋があり、昼に味噌汁付320円の牛丼を時々食べる。シェアトップのすき家を経営する全商の小川賢太郎社長が駒場で二年下で、☛も世話人（理事）をするNPO法人、「緑の地球ネットワーク」の中国黄土高原緑化事業に協力して頂いているので、外出先近くにすき家があるとよく入る。それにイベントがある度に寮に出掛けては寮生と二次会をする和食ファミリーレストラン、華屋与兵衛も全商の傘下だ。

前回の三鷹クラブの講演会で、濱田総長がOBから寄付を募り三鷹寮を増築、現在の6百人の寮から千人に定員を増やす構想を披露、協力を訴えた。坪百万円の計算で40億円集めるのは難しい。それに千人の寮生が催事をしたり、学習・研究の間に体を鍛え、汗を流すホールも欲しい。寮の真ん中を突き抜け建設された東八道路は幹線道路で交通量が多い。接道部分に民間資金を導入して高層の寮を作り、下層にレストランやコンビニなどを誘致してはどうか？差し入れの寿司を握って貰うカップ寿司はいつも大繁盛だが、三鷹寮の反対側は避難公園で、ロードサイド店がない。華屋与兵衛のある人見街道は片側一車線で、予約で寄った時は土曜日の6時なのにガラガラ、9時半に顔を出した時も客がいない。店外まで客が列をなすカップ寿司と大違い。一度小川社長に相談に上がろうと思う。

老舗の吉野家を加えた三強が激しい競争を繰り広げる牛丼業界だが、吉野家の9月の既存店売上高が前年同月比5.9%増と、19ヶ月振りに前年実績を上回った。並盛280円の低価格新商品「牛鍋丼」が好調で、長期の客数減少に歯止めがかかった。ライバルのすき家の牛丼並盛と同価格の牛鍋丼は吉野家の主力の牛丼並盛より100円安く、収益面では足を引っ張る可能性も高い。実際牛鍋丼が好調な結果、吉野家の客単価は15%落ちている。又、牛肉が少なく「シラタキ丼だ」という批判も聞く。競合二社は毎月並盛250円の牛丼値下げキャンペーンを繰り返し、9月の既存店売上高はすき家が16.9%増、松屋が7.0%増と、吉野家以上に伸びている。牛丼戦争の真の勝者は一杯250円の牛丼で昼食を済ませられるサラリーマンだが、その行方はどうなるか？

乗り換え案内のジョルダンの佐藤社長が駒場の2年後輩で、学生時代のアルバイト仲間ということもあり、IモードのAD乗り換え案内サイトのジョルダンニュースに時々意見投稿する。表題の投稿にも色々面白い意見投票がされている。ドコモならIモードメニューから入って、生活ニュース、更にAD乗り換え案内をクリックすると最後の方で登場する。吉野屋は近くにないので食べないが評価が低い、松屋の味噌汁付きは評価が高い。味噌汁なしの分だけ松屋が安い、すき家が売上高トップなのは経営力ということか？

◎キューバ紀行(中)

前号に続き、8月のお盆休みに行った、キューバ旅行記の続きを送ります。

③国家、人間とは？

朝7時前というのに眼下に目をやると、夜明けと共にプールで泳ぐ人影。朝食をとエレベーターロビーに出ると、間近にカリブの海。海辺というのに魚はなく、肉と野菜、果物をビュッフェし、世界遺産ハバナ旧市街観光へ。まずミュージアムになっているハバナクラブの醸造元跡。サトウキビを搾り醗酵させを繰り返し、濾過して寝かせると香ばしいラム酒が出来る。サービスの小さなコップ一杯でいい気分。アフリカ西海岸から連れて来た奴隷が栽培したサトウキビを奴隷に搾らせ、醸造させて大稼ぎしたオーナー家は、革命で

フロリダに亡命、アメリカとキューバに二つのハバナクラブが出来た。やはりキューバの砂糖キビがあつてのラム酒、あつちのは飲んだことはないが、その気分になって飲む。

世界遺産旧市街の範囲は狭い、バスを降り、徒歩で廻る。大聖堂や旧国会議事堂、要塞群。イスラムを追い出し強勢を誇ったスペイン帝国が、南米で強奪した富を母国に運ぶ中継地点として、奴隷貿易と砂糖、ラム酒で我が世の春を謳歌した時代のハバナを見て廻る。馬車、半世紀前の大袈裟で装飾過剰なアメ車、ピザ屋の宅配バイクを丸くキュートにした3人乗りバイクタクシー等が走り回る。ヘミングウエーの滞在したホテルやよく飲んだバー、目の前の運河には海賊対策にスペインが最初に作ったモロ要塞。こちら側の要塞との間の鉄の鎖を上下して海賊船に備えたり、通行料を取ったという。

海賊船と言っても「新大陸」の先行利得を独り占めしようとする貪欲スペインに、出遅れ英仏がその財宝を横取りしようとする一獲千金、欲丸出し、国王勅許の強盗行為だ。所詮「国家」なんてそんなもの！目の前を大型貨物船が通り、舳先にハングル。現代の盗賊国家北朝鮮の船だ。喫水は上がり、積荷は少ない。北朝鮮もキューバも社会主義だからだとの声。計画経済だ、独裁だと言っても、一緒にするのはカストロが可哀想。

④サルサ、肌色の違い超えて！

夕食後サルサ大好き、キューバが二度目のキャリアウーマンに男二人がボデーガードで従い、異国の夜の街へ。サルサのライブバーを梯子、一軒目がワンドリンク付きで5ペソ（外国人専用の1兌換ペソで96円、内国通貨1ペソの24倍）、二軒目は2ドリンク付き5ペソ。肌の黒い若者と白い娘、白い肌の男と褐色の女、アフリカから奴隷として売られて来た者と奴隷を買って鞭打って働かせた者の末裔が、こだわりなく、体絡ませて踊る。

新大陸へのイギリスの移住者は開拓の民として妻帯したが、スペインの植民者は単身、騎馬で乗り込み、原住民、黒人奴隷との混血が進む。経済的な格差と肌の色の違いによる差別も生んだ。革命による経済的平等の実現が肌色による差別を克服したのか？だが、結婚適齢の白人の若者の親の世代ではまだ拘りがあるという。親に反対されても押し切って結婚するのが、今時の一般的若者のようだ。それに部外者の黄色人種が割って入る。セクシーに踊る黒人の若者に魅せられたか、サルサ勉強中の日本娘？と一緒に踊りたいと言う。

Dance with my daughter, please? キューバで突然一人増えた娘は大喜び。

12時過ぎの暗い繁華街を、タクシーを拾えるか心配しながら足早に歩くが、日曜日の真夜中なのに結構人通りがある。暗いのに、治安は良く、夜中の一人歩きも問題ない。貧しいながらも配給で最低限の生活は確保され、医療も教育も無料で、乳幼児死亡率が低く長寿、文盲もほぼゼロで国民の教育レベルが高く、格差が少ないからか？丁度タクシーが止まる。新市街のホテルまで8ペソ。来る時ホテルから乗ったタクシーは15ペソ、交渉次第という訳だ。大通りに出ると沢山の人の出。陽気な音楽が流れ、通りは暗いのにカフェも混んでいる。真夜中だと言うのにバスも沢山走り、遅くまで週末を楽しんでいる。

⑤トリニダーの海は足に痛く

フランス人によって作られた古い街並みの残る世界遺産、港町シエンフェゴスに向かう。のどかな田園風景が続く。サトウキビ、トウモロコシ、バナナ、グアバ、椰子などの畑が点在する。草原では牛が草を食み、明日はミルクとなって人の胃袋を満たす。放し飼いの馬も腹を満たせば、乗り合い馬車や犁を引く。明日はチーズか？山羊も群れる。水田もあ

る。トイレ休憩したドライブインの裏の畑から、赤銅色の年輪を顔に刻んだおじいちゃんが、バナナをもぎ取ってくれる。美味しい。Did you fight with Guevara? と銃を撃つ真似をすると、おじいちゃんも銃を撃つ真似で応えてくれる。

カリブ海に囲まれ高くはないが山もあるから、水は豊だが、ハバナでは給水車のホースが各戸の給水栓につながれているのを見た。水道のインフラは十分ではないのだろう。時折川が海に注ぐ所は小さな入江となって、海水浴を楽しむ人々がいる。砂糖工場もあるシエンフェゴスのレストランでバイキングの朝食を摂ると、視線の先に昨日見た北朝鮮の船。慌てて家を出て、ズボンのポケットに入れる外貨用の二つ折り財布を忘れたので、商店街の歩行者天国の土産物屋で、CUBA と刻印の入った二つ折り財布を5ペソで買う。

トリニダーに向かう途中、今は青々とした原生林だが、植民地時代はサトウキビ畑だったサン・ルイス盆地がある。奴隷を監視していた40メートル余のイスナガの監視塔が残り、隣接の製糖工場で使用していた機械で、当時の奴隷がやっていたのと同じ方法で搾ったサトウキビジュースを飲む。繁栄を残す面影はこの二つしかなく、粗末な家から出てきた女達が手作りの刺繍や、ドレスで一体となった西洋人形を必死になって売り込む。

夕方早目にトリニダーに着く。砂糖と奴隷売買の中心として栄えたが、19世紀中ごろの奴隷制廃止と共に、繁栄の象徴たる立派な街並みを残したまま衰退した世界遺産の町。海辺の古いリゾートホテルに宿を取る。去年の夏のメキシコツアーのカンクン以来二度目のカリブ海体験。死んだ珊瑚の残骸でできた海辺は足に痛過ぎ、早々に退散、プールで泳ぐ。今日は飲み放題ということで、レストランからバーに、更にプールサイドのショーと、モヘートとダイキリで盛り上がる。磯で見つけたツブ貝四個も持参の湯沸かし器で茹でてつまみにする。故郷のツブ貝と形も味も変わらず。我は海の子、白神の！

⑥巨大ゲバラ象の前で

奴隷貿易で栄え、奴隷制度廃止と共に衰退した町で富をなした富豪の、今は博物館となった豪邸を見る。キッチンからトイレまで豪華な調度品で満たされ、日常生活のためにも多くの奴隷が働いた。広場の片隅の、一見雑貨屋風の配給所も見学。配給手帳を持って近所の女達が集まって来る。お米やパン、塩、卵、食用油、豆、洗剤などの生活必需品が家族数に応じ低料金で配給される。飢え死にはしないが腹いっぱい量ではない。吸わない人間にも平等に葉巻が配給されるので換金したり、手作りの土産物を観光客相手に販売したり、24分の1しか価値のない人民ペソをお土産代わりに兌換ペソと交換してくれとねだるなど、遅しく商売して不足を補う。

アメリカの厳しい経済統制の下で、貧しい生活を強いられながらも国民の不満が爆発しないのは、革命前の貧富の差が激しく、庶民は医療や教育もまともに受けられず、餓死する者も多かったということもあるが、革命指導部も国民と同じ生活をし、特権階級化していないこともある。中心の広場で素敵な花嫁衣裳の娘と出会う。花婿は見当たらず、真っ白なスーツの父親がニコニコ付き添う。15歳の女性のいわば成人式で、三回お色直しをして広場を練り歩き、クラシックなオープンカー2台に分乗、クラクションを鳴らしながら街へ繰り出す。陽気なパーティが待っているのだろう。

ハバナへの帰途サンタクララに立ち寄る。革命軍が政府軍の武装列車を襲い壊滅的打撃を与え、革命の勝利を確実にした町だ。車両がそのまま博物館として残され、当時の様子

を生々しく伝える。町にはゲバラの博物館と納骨堂もあり、建物の上に巨大な銅像が建つ。68年にボリビア山中でゲリラ戦中に政府軍に捕らえられ、39歳の若さで銃殺され、後に山中で見つかった遺骨がここに納骨される。折からベトナム反戦闘争が盛り上がり、それをいかに日本革命に繋げるか？真剣に考える日本の若者にとって、「世界の農村が世界の都市を包囲する」、「銃口から政権が生まれる」という毛沢東の世界革命戦略は心に響いた。中国文化大革命、ベトナム民族解放闘争、アジア・アフリカ・中南米で澎湃として起こる反米・反政府ゲリラ、先進各国のスチュウデントパワー、そして世界のどこかで闘っている筈のゲバラといかにして連帯するか？それが課題であり、希望であった。

残念ながら夢破れてゲバラはここに眠り、還暦過ぎた日本の若者は旅人として彼の遺骨の前で帽子を脱ぎ、黙祷する。巨大な銅像の前で、全世界の学生が、労働者が、心を一つにして歌ったインターナショナル、ワルシャワ労働歌、国際学連の歌を歌おうとするが、歌い継ぐことが出来ない。何と言う体たらく！歌い継ぐ言葉の亡失は、その心の喪失か？

◎産業界から見た日本の今後・東大三鷹クラブ第93回定例懇談会

今回の講師は、日立製作所会長の川村隆氏（昭和33年入寮）です。

2009年3月期に日立グループが過去最悪の決算を計上する見通しを発表後、2009年4月に、関連会社の会長であった川村氏が、グループ再生の重責を託されて、日立製作所の会長兼社長に就任しました。就任後は、社会イノベーション事業を軸とした成長事業への構造改革を加速し、上場グループ会社の公開買付け、公募増資、グループ連結経営の見直しなどを矢継ぎ早に実施して、業績V字回復の道筋をつけました。2010年4月に会長専任となり、現在、日本経団連副会長としても活躍しています。

川村氏によると、「大学をめざす頃から、自分達の使命は日本を復興させる事だと思っていた。技術立国しかあるまいと、ためらわずに理系を選び、学部を決める際もエネルギー関連の工学部電気工学とした。」とのこと。卒業後、日立製作所に入社して、発電機設計のエンジニアとしてキャリアをスタート、日立工場長、電力事業本部長など、重電分野の要職を歴任しました。私は同じ部門に所属し、長年、部下として薫陶を受けて今日に至っています。6年後輩であり、大学時代には接点はありませんでしたが、後に、東大三鷹クラブの寮友名簿により、川村氏が三鷹寮の先輩であり、しかも、東寮04室と同室だったことを知り、奇縁を驚いたものです。

日立製作所は、“優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する”という企業理念のもと、今年、創業100周年を迎えました。そして、日立の原点である“社会イノベーション事業”をグローバルに展開することにより、地球社会の期待に応える企業となることを目指して、次の100年に向けて走り始めました。日本の経済成長が鈍化・停滞し、円高が進行して閉塞感が漂う一方、活況を呈する新興国市場では国際競争が激化するなど、重大な転換期を迎えています。川村氏は、「大学をめざした頃から50年余。日本が復興を遂げたのは誠に国民全体の功であるが、最近の停滞は目に余る。もう一度原点復帰をし、子供たちの教育から始まる日本の作り直し運動に、国民全体が本気で取り組むように持って行かねばならぬ。」と危機感を述べています。

今回の講演では、日本の縮図とも言われる日立のモノづくり経営を担ってきた経験に基づき、日本がこれからの時代を生き抜く展望と戦略について語っていただけたと思います。

(昭和39年入寮 齊藤莊藏 記)

日時：平成22年11月15日(月) 18時30分～20時30分 (開場18時)
場所：学生会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28 Tel 03-3292-5931)
会費：5000円(会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み)
定員：100人(先着順、定員に達しない限り、特に連絡しません)
申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182
(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎帰国するのが怖い！？…留学生と日本の食文化楽しむ

9月半ば寮の増築、井水利用専用水道システム導入等の件で母校の施設部長に久しぶりに会って頂く。三四郎池の上の山上会館で昼食、経済学部のソファで休んでいると、向かい側に顔見知りの女の子。三鷹クラブの・・・と名乗るとインドネシアの交換留学生アユちゃん。一年間の留学を終え、7月に送別会もしたので全員帰国かと思っていたが、居残りが四人いて、17日から19日にかけて帰るといふ。急遽翌日夕方、渋谷の駒形どぜうで、最後の晩餐をすることに。エジプトからの新しい留学生三人もいいかというので、計七人。交換留学生の先輩、歌姫サラも参加したいというので、どじょうと鯉と鯨を食べながら駒場祭(11月23日PM1時～2時)の打合せも一緒にしようと、寮委員にも声をかける。

渋谷の駒形どぜうには12人の予定が14人集まる。カイロ大の4人とインドネシアのアユがムスリムで、ノルウェーのロバートとフィリピンのAprille、エルサルバドルのガブリエル君の留学生は酒を呑まないが、盛り上がる。ロバートとAprilleのカップルが成立、ロバートはフィリピンに寄ってからノルウェーに帰るといふ。日本人とフランス人のカップルも成立とのこと。留学生は異口同音に日本は便利で安全、住心地が良過ぎて、母国に帰るのが怖い、日本に住みたいと言ふ。確かに都市間、都市内の公共交通網が限無く張り巡らされ、車なしでも暮らせる。女性の夜の一人歩きも大丈夫。デパート、スーパー、コンビニ、百円ショップと買い物も便利、外食も多彩。医療も充実。留学生でさえ自国に帰るのが怖いというから、日本の若者が海外に出たがらないのも無理がない。

格差の少ない豊かな社会を背景にした、留学生も羨む日本の優れた生活基盤だ。このスマートシティともエコシティとも呼ぶべきインフラを更に進化、そのノウハウを海外、取分けアジアに輸出するのはお互いにとってハッピーではないか？寮生に先頭に立って欲しい。二年後輩でベンチャーファンドオーナーの勝部君も一緒に話しは尽きない。

◎歌姫、社長就任パーティーで歌う

歌手の加藤登紀子さんの事務所、トキコプランニング社長が姉さんの幸子さんから、若い徳田修作さんにバトンタッチするというので、新宿のロシア料理店スングリーでパーティー。お登紀さんに三鷹クラブの歌姫サラを紹介、来月駒場祭と一緒に歌って貰うのを頼むが沖縄公演中で無理。最後にアカペラでロミオとジュリエットのテーマをお登紀さんと業界関係者の前で英語で歌ってアピール、サラの売り出しに一役買う。

徳田社長から以下のメッセージを頂く。「昨日はお忙しい中、お越しいただき誠にありがとうございました。また、サラさんの歌声素晴らしかったですね。イベントの知人からサラさんの感想を聞いたところ・・・『あの子トキコプランニングの歌手になるの?!すご

くいいねえ！登紀子の東大後輩として売り出せば高級感があるから良いー！』など、好評でしたので、今後もチャンスがあればお声掛けさせていただきます。又、音楽プロモーターに資料を渡すことができますので、サラさんの音源CD、PVプロモーションビデオ、プロフィール、などがあれば下さい。」トキコをつぶやき : <http://twitter.com/Tokikokato>

◎歌姫サラより(結びに代えて)

この度は任天堂の Xenoblade というゲームのエンディングテーマを歌わせて頂きました。光田康典さんというゲーム業界では一番人気がある作曲さんの曲なので、プロモーションは全くされていませんが、話題性はあると思います。曲は自ら作った Youtube のアカウントで聞く事ができます : <http://www.youtube.com/user/SarahAlainn>。公式サイトもないため、今はブログや Twitter などネットの力を利用して自らプロモーションしております。簡単に自分の本当の夢も書いてあるこのリンクも送らせて頂きます : <http://sarahalainnjp.blogspot.com/> 自分にとって一番自然である言語は音楽なので、これを通じて多くの人に夢を与えられるアーティストになりたいです。(再見！)